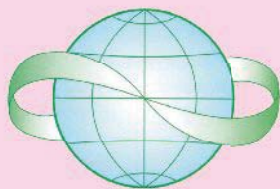


地域のリサイクル情報誌

『ヴィーナス通信』



商標登録第 4882482 号

Venous (静脈) Venus (護美の女神)

第 85 号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町 1 - 16 - 18
TEL : 042 - 395 - 9788
FAX : 042 - 395 - 9787



『資源物＝再生原料とするには、安定した相場、安定した需給バランスが必要だ』

古紙や金属といった資源物は、発生物と言われ、需要のあるなしに関わらず、市民生活の過程において排出され供給量が増える。一方で、資源物の相場や需要は、海外市況や国内の経済状況に大きく左右され、乱高下することがある。

昨年も、ロシアのウクライナ侵攻により、原料の高騰が起きていることは皆様ご存じだと思う。紙業界でも、ロシアが生産していた新聞用紙の供給が途絶えたことで、韓国を始めとして日本の新聞古紙への引き合いが強まり、一時的に新聞古紙が高騰した。ところが、新聞古紙は購読者数の減少により、年々その発生が減っており、代替の原料として、雑誌古紙の引き合いが強くなった。主にオフィス古紙を原料にしている家庭紙メーカーも、企業のDX化、ペーパーレス化による原料不足により、雑誌古紙を

利用し始め、一部の問屋から買い付けているという情報があった。一方、ゼロコロナ政策を継続していた中国の経済不振などもあり、段ボール原紙については輸出も国内需要も振るわず、段古紙の価格は低迷したため、再資源化事業者としては少ない新聞雑誌で得た儲けを段ボールと原燃料の高騰で差し引かれる状況となった。

昨年の一時的なこの状況下において、製紙メーカーは、安いからこそ使い出のあった雑誌古紙を避け、代替可能なところに段ボール古紙の利用を始めた。また製紙会社は、古紙価格が高騰すると、黒液利用によるカーボンオフセットというおまけ付きの木材パルプの配合率を増やすこともある。

実際は、雑誌の高騰は長くは続かなかった。輸出価格の暴落と、国内の板紙需要の不振のためだ。年度末の発生期を迎え、古紙問屋は雑誌古紙の在庫を多く抱えたまま製紙メーカーも休みに入るゴールデンウィークを迎え、丁度この原稿を書いている今、やりくりに追われている。

結論的に、一時的な相場の高騰や需要の増加は、古紙利用の減少、特定品目の余剰に繋がりがねない。資源物を継続して再生原料として使ってもらうためには、安定供給、安定した相場が必要なのだ。どうしたら継続的に使ってもらえるか、再資源化業界だけでなく、行政も巻き込んで考えていく必要がある。(TKO)

●ヴィーナス通信 85号 目次●

- P 1…『資源物＝再生原料とするには、安定した相場、安定した需給バランスが必要だ』
- P 2…直言拝聴『雑がみの掘り起こしとその品質維持向上について』愛知県古紙協同組合 専務理事 伊藤 裕様
- P 4…リサイクル女子会名古屋視察、フリーコラム
- P 5…リサイクル掲示板『過剰包装やめましょう、ごみ・資源も』
- P 6…専ら物の定義を再確認～環境省が通知を出す、各種総会の報告
- P 8…母との思い出(故・藤本加代子様を偲んで)、代表者交代・異動のお知らせ
- P 9…TAMA とことん討論会、東村山市集団回収団体連絡会、夏のイベント案内
- P 10…古紙持ち去りパトロールを強化しています、行事・行動、編集後記

直言拝聴

『雑がみの掘り起こしと その品質維持向上について』

愛知県古紙協同組合
専務理事 伊藤 裕



■愛知県古紙協同組合について
当組合は昭和四十六（一九七二）年八月六日に設立された愛知県内の古紙問屋の組合で、現在組合員数は三十七社です。

組合事業として①紙製容器包装及びペットボトルの選別・梱包・

保管等の業務（名古屋市からの委託事業。以下「紙・ペット業務」という）②古紙・古着の収集、運搬及び資源化（自治体からの委託事業）③古紙リサイクルセンター（名古屋市内）の開設④環境イベントへのブース出展、などを実施しています。組合事務所所在地は名古屋市中村区名駅三丁目、予算規模は五億円程度、正規職員二名とパートタイマー一名で運営しています。

■紙・ペット業務の経緯について

名古屋市では昭和六十一（一九八六）年度に七十八万トンだったごみ量が、平成十（一九九八）年度には約一〇二万トンに達し、市のごみ処理体制は、焼却・埋立の両面で危機的な状況に直面しました。特に埋立処分場（愛岐処分場・岐阜県多治見市）は逼迫しており、藤前干潟（名古屋港区）に次期埋立処分場を建設する計画を進めていました。しかし、藤前干潟が渡り鳥の重要な飛来地であったため、埋立中止を求める声が強まり、平成十一（一九九九）年一月に藤前干潟の埋立計画中止の決断をするに至り、翌月二月には「ごみ非常事態宣言」を発表して、二年間で年間ごみ発生量の二〇％、二十万トンという大幅なごみ減量を

を目指すことになりました。

そして、平成十二（二〇〇〇）年八月より、「プラスチック製容器包装」「紙製容器包装」「ペットボトル」の新資源収集、「スプレー缶類」の別途収集、「家庭ごみ指定袋制」などの新たな施策がスタートしました。一気に細かい分別収集を始めたのは、埋立て処分場も焼却工場も限界だった、どこにも埋立てられないという切羽詰った事情があったからです。一刻も早くごみを減らすことが市民生活を守る唯一の方法となったのです。

こうした状況の中、収集運搬後の紙製容器包装とペットボトルの選別・圧縮梱包・保管等の業務を当組合が名古屋市より請負うことになりました。現在、紙製容器包装は五施設、ペットボトルは四施設で受入れて業務を実施しています。当組合に委託することになったのは、古紙問屋の圧縮梱包機の活用と業務の安定的な継続が必要だったからだと思います。ごみ非常事態がなければ紙・ペット業務はなかったかもしれませぬ。

■ごみ非常事態宣言以降

宣言後、様々な施策が実施され平成十二（二〇〇〇）年度のごみ処理量は七十六・五万トンで、「ごみ非常事態宣言」で掲げた目標が

達成されました。その後も、ごみ処理量は大きなリバウンドもなく緩やかに減少し、「ごみ非常事態宣言」を脱し、名古屋に分別文化が根付いたと言われるまでになりました。

現在、ごみ非常事態宣言が発表されてから二十四年が経過したところですが、その間ごみ処理量は約四割減、埋立量は約九割減となりました。しかしながら平成二十三（二〇一一）年度以降、容器包装の資源分別率が低下し、ごみ処理量は横ばい状況が続き、さらなる取組が必要とされてきました。

■紙製容器包装と雑がみの回収

そのさらなる取組の一つとして令和五（二〇二三）年四月より紙製容器包装と雑がみを資源用指定袋と一緒に入れて出すことができるとなりました。それまでは紙製容器包装だけを資源用指定袋に入れて出すことになっていました。

背景としては次のことが挙げられます。

- ・紙製容器包装と雑がみは資源化できるにもかかわらず相当量ごみとして焼却されている（家庭系でごみになっていくリサイクル可能な資源物のうち、紙製容器包装と雑がみが占める割合は約四割）。



開始前に全戸配布されたチラシ（右：表面
左：裏面）

・紙製容器包装だけではなかなか資源用指定袋がいっぱいにならないのでつい可燃ごみにしてしまう傾向があった。
・雑がみは集団資源回収に出せることになっていくが、分別して出す習慣が根付いておらず可燃ごみになってしまっていることが多かった。
そこで、紙製容器包装と雑がみを資源用指定袋と一緒に入れて出せるようにすることで、資源用指定袋を有効に使い、市民の手間を軽減し、資源分別率の低い紙製容器包装と雑がみの資源化を推進していこうという取組です。

回収された紙製容器包装と雑がみは①製紙原料になる紙製容器包装と雑がみ、②製紙原料にならない紙製容器包装と雑がみを、分別して出すことになり、SDGsの目標十二「つなぐ責任」の「分別排出」を推進することになります。

■集団資源回収への影響について
名古屋市中では紙製容器包装以外の古紙類について元々行政回収をしておらず、市民の皆さんは主に集団資源回収に古紙類を出しています。

集団資源回収を実施している組合（名古屋リサイクル協同組合。以下「名リ協」）では、紙製容器包装と雑がみの一括回収が始まることで、同じものが集団資源回収に出てきてしまうのではないかと不安がありました。特に製紙原料にならない紙製容器包装がこれまで以上に雑がみに混入してくることが懸念されました。

そこで、名リ協では集団資源回収実施団体向けにチラシを作り、本年三月に五万枚ほど配布して直

い紙製容器包装に選別され、①はこの地区の製紙メーカーに原料として使ってもらい②は容器包装リサイクル法の枠組みでリサイクルされることになっていきます。選別・圧縮梱包・保管業務は引き続き当組合で実施しています。

この名古屋市の取組は製紙原料になる紙製容器包装と雑がみを同時にごみから掘り起こすことになり、SDGsの目標十二「つなぐ責任」の「分別排出」を推進することになります。

接注意を呼びかけました。そのかいあってか、品質低下につながるような大きな変化はなく、従来通りの品質を維持できています。

最後に
ごみになっていく雑がみを掘り起こして活用していくことは古紙業界にとっても自治体にとっても大変重要です。同時に、雑がみ品質の維持向上も欠かすことができません。「紙製容器包装で製紙原料にならないもの」の混入を防ぐこととはその他の禁忌品の混入防止にもつながります。容器包装リサイクル法を活用して自治体で「紙製容器包装で製紙原料にならないもの」を資源化していくことは古紙品質向上につながる一つの手段と



集団資源回収実施団体に配布されたチラシ
（右：表面 左：裏面）

いえるかもしれません。
分別（品質）を社会に伝えることが古紙業界の權益を守ることになり利益につながります。製紙業界にとっても品質が安定し利益につながります。古紙の品質を維持できれば利用促進につながり、紙ごみの減量が進み社会の利益に資することになりESG経営やSDGsの理念と同様の「三方よし」となります。正しく社会の課題を解決することにもつながりサーキュラーエコノミーにも寄与することになります。



*参考 出典／リサ2023年2月号

紙製容器包装と雑がみの関係をわかりやすく説明している図です。参考にしてください。

リサイクル女子会
名古屋視察に行つて来ました

去る四月二一日〜二二日、東資協で始まったTOKYOリサイクル女子会の有志十名で、名古屋地区の視察旅行に行つてまいりました。初日はまず、福田三商株式会社の本社に訪問しました。本社工場を視察した後、場所を移して同社林寛子社長と会食をしながら意見交換をさせて頂きました。



名古屋市リサイクル協同組合の事務所にて

その後、後から合流した女子会メンバーと一緒に名古屋市リサイクル協同組合の事務所にお邪魔し、石川喜一郎理事長と、ヴィーナス通信の今号にもご寄稿頂いている伊藤専務理事から、名古屋市における古紙回収システムの概要と、

紙製容器包装と雑がみの回収方法についてお話を伺いました。夜は、名古屋の繁華街栄で名古屋めしを頂きながら、女子会トクで大いに盛り上がりました。

明けて翌日は朝から名古屋城のすぐ近くで古紙問屋を営んでいる株式会社エヌ・エヌ・ティーを視察しました。きれいに整理整頓、清掃されたヤード内を案内して頂いたあと、同社が運営するエコライフショップ『マジックマーマ』に移動して、社長の篠田峰男さんと、二女で取締役の篠田朋香さんに同社の取り組みについてお話を伺いました。今年の九月には、構内で演奏会を始めとしたイベントを開催されるとのことで、機会があればまたお邪魔したいと思えます。



エヌエステーの篠田さんを囲んで

まじめに研修をした後は、名古屋城下の金シャチ横丁でひつまぶしを食べ、お土産を買った後、名古屋城散策、熱田神宮参拝、日本一元気な商店街(アメ横と秋葉原と新大久保を足したような)と言われる大須商店街散策、大須観音参拝と名古屋観光も堪能して解散となりました。

福田三商の林社長、エヌ・エヌ・ティーの篠田さんと、リサイクル女子会のネットワークが名古屋にも広がって、いろいろ興味深いお話もお伺い出来ました。(AYK)

【フリーコラム】

〇コロナ後の楽しみ方

今この原稿を書いている五月八日は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「二類相当」から「五類」に移行する日で、まさにこれから、三年間続いた制限のあつた暮らしから、コロナ前の普通の生活が始まるうとしています。

取り立てて身の回りでは、仕事もプライベートも大きな変化はないのですが、テレビで流れるニュースの街頭インタビューでは、『旅行に行きたい』『ライブが観たい』『大人気で楽しく飲みに行きたい』など、みなこれから訪れる楽

しそうな雰囲気伝わってきます。では、これから僕は何をして楽しもうかなあ…？

ジムにいつて黙々と筋トレ、愛猫達とまったり戯れ、バイクでツーリング、奥多摩の山にも上りたい、オーデオブックも試したい…

こうやって並べてみると、コロナ禍でも全部ひとりで出来たことだったりして笑。(高橋)

〇コロナ後を考える

新型コロナウイルスの影響で、多くの人々が新しい生活スタイルを取り入れた。しかしコロナ禍が終息しても、このような生活スタイルが多くの人達によって、続く可能性が高いように思う。そこで、仕事と趣味のバランスを考えることが重要だ。時間を上手く使い、趣味やリラックスする時間を持つことが必要だ。また、外出自粛中に趣味を見つけた人はその趣味を継続することで、ストレス発散や充実感を得ることが出来るだろう。これからは自分にとって大切なものを見つけ、仕事と趣味のバランスを良くし、充実した人生を送ることが求められるのではないだろうか。まずは控えてた旅行か、映画でも行ってみるかな。(若林)

リサイクル掲示板

～過剰包装やめましょう、ごみ・資源も～

回収された資源物は、古紙問屋や行政のリサイクルセンターで選別、加工作業をしています。ここではまず袋を破いたりひもを切ったりして中身を取り出す作業が必要になります。袋を破いて取り除く作業は、破袋機、除袋機という選別ライン上の機械で行う場合もありますが、びんはリターナブルびんを取り出すため、有害物は蛍光灯が割れてしまう、スプレー缶が破裂する恐れがあるため、機械にかけることは出来ず、選別作業員が手で破袋をしています。古紙の場合は、ひも取り機という機械で梱包しているひもを取る場合もありますが、ビニール袋に入れられている場合はうまく取れなかったり、段ボールについてはその形状からひも取り機が使えないので、やはり人手がかかる場合があります。

① 破袋・除袋、ひも切り作業はなかなか大変

びんの破袋作業では、ひとつひとつ袋を破いて中からリターナブルびんを取り出し、陶磁器や中身の残っているビンなどリサイクル出来ないものを取り除いていきます。びんはとても重いので、カゴに入れて移動するのもなかなか大変です。古紙のひも切り作業も、ストックヤードに積んである古紙のひもを切る場合、どうしても前屈みでの作業になるので、腰を痛めないように注意が必要です。

② 過保護すぎる包装に苦戦することも

現場で破袋、除袋作業を行っている時、資源物をビニール袋で何重にも包んでいたり、必要以上にひもで縛ってある場合があります。有害物で電池を出す場合に、電池同士をセロテープでぐるぐる巻きにしていることもあります。古紙を梱包する時も、ひもやガムテープでぐるぐる巻きにされている場合もあります。

こうした資源物や有害物の過剰包装は、破袋、除袋作業を行っているとなかなか取り除くことが出来ず、苦労します。



紙袋に入れた雑がみをビニールで巻いた上、更にビニールひもで縛っている悪い例

③ 資源物・有害物を出すのにビニール袋をあえて買う方も多い

ビニール袋は、出しやすい、収集の際につかみやすいという利点がありますが、選別処理作業の後にはどうしてもごみになってしまいます。(びんの入っていたビニール袋は、汚れていたり、びんの破片が残っている可能性もあるため、廃プラスチックとしてのリサイクルは困難です。)

最近では、レジ袋の有料化やマイバッグの普及で、ごみや資源を出すのに使うレジ袋が足りないため、ビニール袋をお金を出して買っている方も多いと聞いています。最終的にごみになってしまうものをわざわざ買っているのはなんだかもったいないですし、脱プラスチックが叫ばれている中本末転倒な気が致します。少なくとも過剰包装はやめて、資源物を出すのに最低限、必要な袋を用意するようにしましょう。

④ そもそもビニールを使わない、カゴ出しが出来る場合があります

西東京市では、びん・缶・ペットボトルなどを袋ではなく、カゴに入れて出すことになっています。清瀬市でも集積所のかごに出します。小平市や東久留米市では、びんを透明か半透明の袋に入れて出すことになっていますが、『かごやバケツの中に直接入れて出すこともできます。』と記載があります。環境にやさしいライフスタイルを実践するのに、ビニールのごみを出さない、カゴ出しを検討されては如何でしょうか？



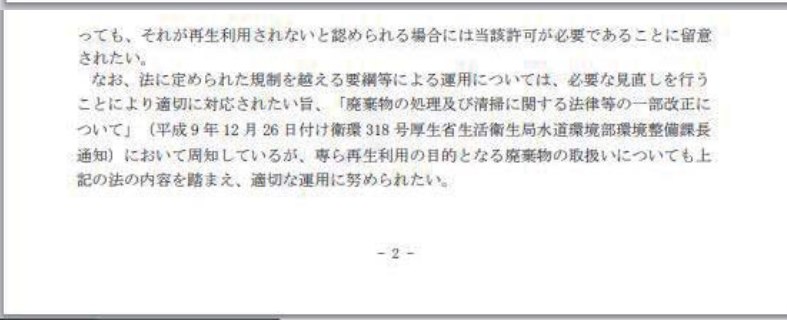
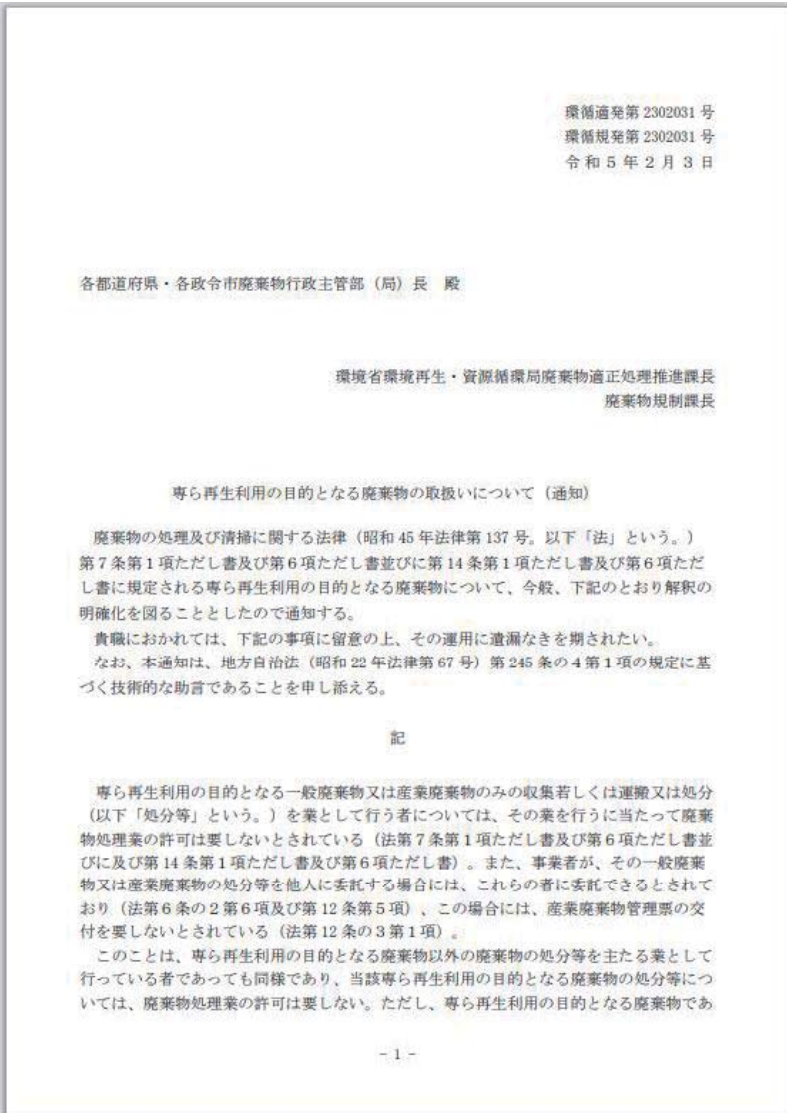
※自治体ごとに出し方のルールが異なりますので、ホームページやごみカレンダーをよく確認して下さい。

専ら物の定義を再確認
環境省通知について

去る二月三日、各都道府県・各政令市廃棄物行政主管部（局）長に対し、環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長・廃棄物規制課長名にて、『専ら再生利用の目的となる廃棄物の取扱いについて』の通知が出された。通知の内容は、左の通りだが、

簡潔に申し上げると、『専ら物が再生利用される場合には、専ら物の事業者であっても（また、逆有償の場合でも）廃棄物の許可やマニフェストは必要ないが、再生利用されない場合には、許可やマニフェストが必要になる』というものだ。びん・カレットなど、再生利用はされているが、運賃の関係で逆有償での取引となっている品目に

ついて、一部の自治体で産業廃棄物扱いとされたことで、再生処理が困難になってしまった事例を受けて、日本再生资源事業協同組合連合会が環境省環境・再生资源循環局長に陳情して実現したものだ。昨年六月に都道府県・政令指定都市の担当課長会議に一度同様の資料が出されたが、今回の通知はそれをさらに効力を持たせようとす



ただ、この通知で、専ら四品目（古紙類、金属類、古繊維、びん・カレット）については、許可やマニフェスト不要とされたが、その他の廃棄物については、これまで同様、廃掃法の範囲内であることは変わらないので注意されたい。



日資連のリサイクル化証明書。現在、電子化に向けて準備中。

事長、紺野専務理事も日資連の委員長として陳情に同行している。時々、古紙や金属類の回収に際して、マニフェスト伝票の発行を希望されることがあるが、この通知を見て頂くと、ご納得を頂けるようだ。当組合の組合員は、全社日資連の再生资源回収事業者認定制度を受けており、左の写真の『リサイクル化証明書』を発行できるので、専ら物のリサイクルに際して証明書類が必要な事業者の方々には是非ご相談をして頂きたい。

東多摩再資協青年部 第二一回通常総会

去る四月十三日(木)、同心居(清瀬市)にて東多摩再資協青年部通常総会が開催された。

青年部長挨拶にて開会し、議事の審議が始まった。前年度事業報告・決算報告、今年度事業計画・予算案、すべての議案が無事成立した。

御出席頂いた来賓挨拶では、吉浦理事長から、組合事業の品質向上、三〇周年を記念した安全講習会の運営、新型コロナウイルス第五類移行に伴う今後の活動についてお話を頂くとともに、青年部が中心になって開催している回収責任者意見交換会について積極的に開催して欲しいとお話があった。その後、青年部顧問である福田業務委員長の乾杯で歓談が始まった。小畑副理事長の中締めにて懇親会は盛会のうちに閉会となった。

(水野 K)

東資協青年部第二〇回通常総会
去る、四月二十八日(金) いけす無門(新宿区)にて東資協青年部通常総会が開催された。

土井青年部長の開会挨拶があり、議事の審議が始まった。前年度事

業報告・決算報告、今年度事業計画・予算案、すべての議案が無事成立した。

公務にて欠席の武田理事長に代わって出席を頂いた福田副理事長と青年部相談役の岩窪集団回収部会長のお二方より来賓のご挨拶を頂いた。福田副理事長は、『卒業した元部員が、親会の役員を務めている。積極的に参加し活躍してほしい』とお言葉を頂いた。岩窪相談役からは、『人生の半分以上を青年部で過ごし卒業したあと、青年部ロスになるほど魅力的な青年部であり、今後も活発な活動を継続して欲しい』とお話があった。



東資協青年部総会での集合写真

懇親会において、リモートでは話辛い、各社の状況や青年部ですべてみたいことや、困っているこ

となど活発な意見交換が行われた。青年部顧問である、紺野総務委員長の中締めにて懇親会は盛会のうちに閉会となった。(水野 K)

第七四回東資協通常総会

去る五月二十日(土)、東京ガーデンパレスにて、東京都資源回収事業協同組合の第七四回通常総会が開催されました。本年は、総会後の懇親宴に来賓を招いてコロナ前と同じスペースでの開催となりました。

まず、通常総会では、東多摩支部の故藤本加代子様に対し功労者表彰が贈られました。株式会社藤本チェーンの藤本哲司さんが代理で受賞されました。総会の議長には、東多摩支部の福田支部長が選任され、スムーズな采配で全ての



故・藤本加代子様の代理受賞で表彰を受けた藤本哲司氏(右)と武田理事長(左)

議案を滞りなく議事進行し、予定よりも三〇分早い終了となりました。

総会後の懇親宴では、四年ぶりに来賓を交えて、コロナ前よりは若干少ないですが、およそ七〇名の皆様と会食しながら交流することが出来ました。武田理事長の歓迎のあいさつでは、東資協の歴代理事長である新井英一相談役が春の叙勲で旭日双光章を受章されたこと、六月一七日に上部団体である日資連の第五一回全国大会東京大会が浅草ビューホテルで開催されるため組合員、関係各位にご参加、ご協力をお願いしたいとの報告がありました。乾杯の後は、久しぶりにお会いする方も多く、大いに盛り上がりました。懇親宴の中締めは、毎回恒例の当組合吉浦理事長が指名を受け、威勢よく締めて頂きました。

今回は、東資協で担当委員長でしたが、事務局も私達も久しぶりのこの規模での開催ということもあり、いろいろ至らない点もありましたが、何とか無事に総会、懇親宴を開催することが出来、一カ月後に控えた日資連全国大会東京大会という大きなイベントに向け、組合員が一致団結できたのではないかと考えています。(TKO)

母の思い出

株式会社藤本チェーン
代表取締役 藤本 哲司

母藤本加代子は昭和三二年、父俊光とともに父の兄を頼って上京し、杉並区高円寺でリヤカーを引き、その後建場業を始めました。昭和三七年には北多摩郡保谷町（現在の西東京市）に、また昭和四〇年には現在地東久留米市に移転し、事業を拡げていきました。上京以来六十六年間にわたり再生資源卸売業に携わりました。

この間、業界・同業の皆さま、お取引先さま、ご近所の皆さま、従業員の皆様などのご支援とご協力を得ながら、共に生涯現役を貫きました。応援してくださった多くの方々には、本当に感謝に堪えません。

昭和八年生まれの母は、高等女学校を卒業して生まれ育った和歌山から大阪に出て、そこでシベリア抑留帰りの父と出会ったそうです。父は東久留米団地でチリ紙交換を始めたり、女性運転手を集めるためにピンク色のトラックを十台単位で特注したりして事業を拡大するアイデアマンでしたが失敗も多く、一方、母は堅実で財布を

握り、しっかりと締めるタイプで二人はいいコンビでした。子供の教育にはお金は出すが口を出すことはあまりなかったですが、ずいぶん心配をかけたと思います。



写真1

写真1は、母が二十二歳、上京前のものです。子供の三歳の誕生日に撮影したものです。当時のツパリ娘、ヤンキーママですね。



写真2

写真2は、現在地東久留米市での開業六周年記念披露式の際の事業所の全景です。建物や倉庫は今もそのままですが、当時、周辺に住宅は少なく、梅林や桑畑、原っぱの中の事業所でした。



写真3

写真3は、三年前の母の日のコマです。父の代わりとして社長業に専念していました。

両親ともに生涯現役を貫き通しましたが、それは後継者に恵まられなかったことの裏返しでもありません。この商売の後継者育成は難しいです。主（あるじ）のいなくなった藤本チェーンですが、私、長男の藤本哲司がサラリーマン生活終了とともに働くことになりましたので、どうぞよろしくお願います。

私は、永らく産業機械、環境設備、半導体製造装置などの製造・販売・エンジニアリングの会社に勤めましたが、この業界のことに疎く、新人同然で、後期青年部員です。どうぞよろしくご指導の程、お願いいたします。ちなみに、写真1の三歳の子供は、私です。

以上

代表者交代・異動のお知らせ

●株式会社藤本チェーン
令和五年一月、代表取締役社長藤本加代子様のご逝去に伴い、代表取締役 藤本哲司氏に交代されました。

●株式会社ケイシン
令和五年三月に、代表取締役社長 水野 彰氏が取締役会長に、取締役副社長 水野 敬一氏が代表取締役社長にそれぞれ就任されました。

●東多摩再資協事務局
事務局員の高山あかねが四月二十日をもって退任し、五月一日付で新任の井上真佐美が着任しました。

トイレットペーパー

「フューメラン」

(65m巻き・100個入り)

1ケース3,300円(消費税・配達料込み)です。

※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。

小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市

ご注文は当組合までお願いします。

TEL : 042-395-9788

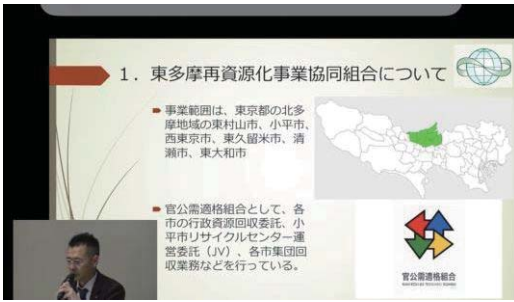
FAX : 042-395-9787

「第三〇回TAMAとことん
討論会に参加しました」

令和五年三月四日、毎年恒例となっているTAMAとことん討論会に参加させていただきました。多摩市にある京王聖蹟桜ヶ丘SCアウラホールでのリアル開催と、YouTubeによるLIVE配信で行われました。

この討論会は、市民団体である「特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦」が主催しており、私たち回収業者が市民の皆様の日々の活動やご苦労を知ることができる数少ない場として毎年、当組合や上部団体である東資協も協賛してまいりました。

今回は三〇回目の記念の会でもある上、我が組合の紺野専務理事



YouTubeでのLIVE配信の様様。紺野専務理事が『リサイクルに関心を持ってもらうための取り組み』について説明。

も話題提供者として壇上から当組合の活動をアピールするとの事で吉浦理事長、小畑副理事長、私の三名にて応援参加させていただきました。

「ごみ問題は自分ごと、多摩地域からの取り組みから考える」をテーマに、六名の話題提供者からのプレゼンが行われた後、この六名とディスカッションを行っていく形式で行われました。

歴史を重ねて今回は三〇回目の開催でしたが、数少ない市民団体主催の討論会です。四〇回、五〇回と末永く続いていく為にも是非皆様のご参加をよろしくお願いいたします。(福田)

東村山市集団回収団体連絡会

去る五月二〇日(土)、東村山市民センター第一会議室にて、東村山市集団回収団体連絡会が開催されました。毎年開催されている会議ですが、コロナ禍中に開催された昨年より多くの団体の代表の皆様にご



参加頂きました。

まず初めに、東村山市資源循環部ごみ減量推進課武田課長のごあいさつの後、担当の方から集団資源回収の実績や補助金の申請方法に関する説明があり、その後、集団資源回収事業を取りまとめている事業者として東多摩再資源化事業協同組合のご紹介を頂き、吉浦理事長がご挨拶をさせて頂きました。その後、私の方から『資源物の市況と集団回収の動向、分別について』というテーマで、パワーポイントや禁忌品のサンプルなどを使って講演をさせて頂きました。古紙センターで制作した『禁忌品見本帳』を回覧しながら、昇華転写紙などの重大な影響を及ぼす禁忌品については実物を見せて説明しました。参加団体からは、自治会の総会などでも会員に説明したいという要望もあり、そういった団体には、資料を郵送しました。当組合では、雑がみの回収を増やす工夫や、古紙の分別、禁忌品の説明について、出前授業も行っております。会場をご用意頂ければ、少人数でも対応出来ますので、お気軽にお問合せ下さい。

●夏のリサイクルイベントが開催されます！
長引くコロナ禍で、多くのリサ

イクルイベントが中止や縮小、リモート開催になっておりましたが、今年の夏からは、少しずつリサイクルイベントが復活し、小平市、東大和市、清瀬市などで左記の通りイベントが予定されています。当組合では、開催状況に合わせて、分別に関するパネル展示、育児用品、おもちゃ、食器類などの小物雑貨類の無料回収の他、コロナで開催出来なかった分別ゲームなども再開していきたいと考えています。是非、足をお運び下さい。

●夏のリサイクルイベント案内●

- ①小平市ごみゼロフリーマーケット
5月27日(土)10時~14時 @小平市リサイクルセンター横 多目的広場
- ②東大和市環境市民の集い
リモート開催 5月13日~6月30日
会場開催 6月3日(土)10時~14時 @中央公民館
- ③清瀬の環境・川まつり
7月22日(土)10時~14時 @台田運動公園

古紙持ち去りパトロー ルを強化しています△

多摩地域では、近年資源物の戸別収集が進んだことや、古紙輸出価格の低迷していたことなどから、古紙持ち去り業者の目撃情報が少なくなっていました。

ところが、昨年新聞古紙の輸出価格が高騰したことや、近隣地域にアウトサイダーの古紙問屋が出店したことなどを背景に、古紙持ち去りの目撃情報が増えてまいりました。実際に、埼玉県南部の自治体でGPS追跡調査を行ったところ、新聞古紙が持ち去られ、古紙問屋の組合に加盟していない問屋に持ち込まれたことが確認されました。

当組合と致しまして、資源物の安定的なリサイクルを阻害し、市民の安全安心な生活を脅かす持ち去り業者は絶対に許すわけにはいきません。パトロールやGPS追跡調査など、行政と連携をしながら対策を継続したいと思えます。

行事・行動

【二月】

三日：共同受注検査(東久留米市)
：小平RC責任者会議(Web)

【四月】

二九日：東村山市収集業者連絡会議
五日：小平RC責任者会議(Web)

【三月】

四日：東資協新年賀詞交歓会
六日：小平RC関連JV会議(Web)
八日：東大和市廃棄物減量審
：西東京市廃棄物減量審
十日：東村山市廃棄物減量審
：東資協理事会(Web)
十三日：定例理事会(Web会議)
十四日：清瀬市廃棄物減量審
：東リ協理事会(Web)
二十日：小平市廃棄物減量審
二一日：小平市リサイクルきやらばん
：業務・集団回収委員会(Web)
二八日：容環協紙パック意見交換会

【五月】

七日：東資協理事会(Web)
十日：小平RC関連JV会議(Web)
十一日：定例理事会(Web会議)
十三日：青年部総会
十五日：日資連理事会(Web)
十七日：共同受注検査(東村山市)
：業務・集団回収委員会(Web)
十九日：共同受注検査(東村山市)
：回収責任者意見交換会(Web)
二四日：広報委員会・創立三十周年実行委員会(Web)
二六日：共同受注検査(東村山市)
：東村山市収集業者連絡会
二七日：共同受注検査(東村山市)
一日：東村山市総合防災訓練調整会議
：小平RC責任者会議(Web)
八日：小平RC関連JV会議(Web)
十日：東大和市環境市民の集い全体会議
十二日：東リ協理事会(Web)
：東資協理事会(Web)
十三日：東大和市環境市民の集い
オンライン開催(六月三十日)
十五日：定例理事会(Web会議)
十七日：古紙持ち去り問題意見交換会(Web)
二十日：東村山市集団回収団体連絡会
：日資連理事会(Web)
：第七回東資協総会
二二日：業務・集団回収委員会(Web)
二四日：広報委員会・創立三〇周年実行委員会(Web)
二六日：第三十回通常総会

編集後記

三七日：小平市ごみゼロフリーマーケット
：多摩市リサイクル協同組合通常総会
三十日：東リ協会定時総会
三一日：東村山市エコライフフェア実行委

直言拝聴をご寄稿頂いた伊藤様、ありがとうございます。雑がみの掘り起こしや、紙製容器の回収については、古紙の発生が減る中で課題として取り組んでいる最中であり、大変参考になりました。さて、五月八日に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が五類に引き下げられ、ようやく元の日常に戻りつつあります。当組合でも、回収作業中、事務局でのマスク着用義務を中止し、個人の判断とさせて頂いております。市民の皆様と対面で接する場面ではなく、マスクを着用できるように持参はしておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。組合の会議も、これまではWeb会議やハイブリッドでの開催がほとんどでしたが、今後はリアルでの開催を増やしていきます。それに伴い、次号以降、完全リモートのもの以外は上記の行事・行動欄(Web)の表記をしないようにいたします。今号で見納めということとでお願いします。(TKO)